

長岡市・和島村合併協議会 長岡市・寺泊町合併協議会 長岡市・栃尾市合併協議会 長岡市・与板町合併協議会

合併協議会だより

第2号

発行：長岡市・和島村合併協議会 長岡市・寺泊町合併協議会 長岡市・栃尾市合併協議会 長岡市・与板町合併協議会

合併の期日を平成18年1月1日に決定しました

2月9日に、長岡市・栃尾市合併協議会と長岡市・与板町合併協議会は、第2回協議会を長岡市役所で開催しました。

報告事項として、新市建設計画策定小委員会から「栃尾地域」と「与板地域」の活動方針・展開と「長岡市・栃尾市」と「長岡市・与板町」の新市建設計画(案)が報告されました。

また、協議事項では、「合併の期日」を平成18年1月1日とすることが承認されました。

これにより、長岡市と和島村、寺泊町、栃尾市、与板町の四つの協議会すべてにおいて「合併の期日」が平成18年1月1日に決定し



ました。

(和島村と寺泊町の第2回協議会については創刊号に掲載してあります。)

「長岡市・栃尾市合併協議会」 「長岡市・与板町合併協議会」 第2回協議会開催

それぞれの第2回目の協議会(以下「協議会」という。)では、報告事項に続き、協議事項が提案され、協議を行い、いずれも原案のとおり承認されました。

報告事項

新市建設計画策定小委員会報告

・長岡市・栃尾市合併協議会新市建設計画策定小委員会報告

・長岡市・与板町合併協議会新市建設計画策定小委員会報告

豊口脇小委員会委員長から、これまで小委員会にて検討した「栃尾地域」と「与板地域」の整備活動方針と新市の地域らしさ価値を高める行動計画として、新市建設計画の案が報告されました。

今後は、更に県との事前協議を経て、3月上旬に最終的なまとめを行う予定であることが報告されました。

協議事項

合併の期日

合併の期日は、平成18年1月1日とする。

農業委員会の委員の定数及び任期の取扱い

1 編入される栃尾市、与板町の農業委員会は長岡市の農業委員会に統合するものとする。

2 農業委員会の委員の定数及び任期については、市町村の合併の特例に関する法律第8条第1項及び第2項の規定を適用し、次のとおりとする。

(1) 編入される栃尾市、与板町の農業委員会の選挙による委員のうち「栃尾市7人」と「与板町2人」に限り、引き続き長岡市の農業委員会の選挙による委員として在任するものとする。

この場合において、長岡市の農業委員会の選

挙による委員として在任する者は、編入される
 栃尾市、与板町の選挙による委員の互選により
 定めることとする。

(2) 任期は、長岡市の農業委員会の委員の残任期
 間とする。

3 合併後最初に行われる一般選挙からは、長岡市
 農業委員会の選挙による委員の定数を40人とする。
 また、農業委員会の区域を分け選挙区を設ける
 ものとし、栃尾市、与板町の現在の行政区域を区
 域とする選挙区を設置するものとする。

使用料・手数料等の取扱い

1 施設使用料については、原則として現行どおり
 とする。ただし、同一又は類似する施設使用料に
 ついては、施設の規模、実態等を考慮し、可能な
 限り統一を図るものとする。

2 行政財産使用料及び占用料については、長岡市
 の制度に統一する。

3 手数料については、長岡市の制度に統一する。

4 協定項目「各種事務事業の取扱い」で提案する
 使用料・手数料等については、除くものとする。

公共的団体等の取扱い

新市の一体性の速やかな確立に資するため、各団
 体のこれまでの経緯や意向・実情等を十分に尊重し
 ながら、法の趣旨に沿って次のとおり調整に努める。

(1) 市町村に共通している団体は、合併時に統合す
 るよう調整に努める。

(2) 市町村に共通している団体で、実情により合併
 時に統合できない団体は、合併後速やかに統合す
 るよう調整に努める。

(3) 市町村に共通している団体で、統合に時間を要
 する団体は、将来統合するよう調整に努める。

(4) その他の団体は、原則として現行どおりとする。

町名・字名の取扱い

1 長岡市においては、現行どおりとする。

2 栃尾市においては、「大字」の表記を削除する。
 ただし、長岡地域合併協議会を構成する6市町
 村の町名と重複する町名には、「栃尾」をつけるも
 のとする。

(例) 栃尾市大字赤谷 ↓ 長岡市赤谷
 (例) 栃尾市大字大野 ↓ 長岡市栃尾大野

3 与板町においては、「与板町」をつけ、「大字」の
 表記を削除する。

(例) 与板町大字与板 ↓ 長岡市与板町与板
 (例) 与板町江西二丁目 ↓ 長岡市与板町江西二
 丁目

各種団体への補助金・交付金の取扱い

各種団体への補助金・交付金については、その事
 業目的、効果を総合的に勘案し、公共的必要性、有
 効性、公平性及び地域特性の観点から、次のとおり
 調整を図るものとする。

ただし、協定項目「各種事務事業の取扱い」で提
 案する補助金・交付金については、除くものとする。

(1) 両市町同一又は同種の団体に対する補助金につ
 いては、できるだけ早い機会に関係団体等の理解
 と協力を得て、統一する方向で調整する。

(2) 両市町独自の団体に対する補助金については、
 新市全体の均衡を保つよう調整する。

(3) 整理統合できる補助金については、統合又は廃
 止する方向で調整する。

各種事務事業の取扱い

すべて原案どおり承認されました。
 (長岡地域合併協議会の調整方針に基づき調整を
 行いましたので、長岡市民にとって新たな行政サー
 ビスの変更はありません。)

和島、寺泊、栃尾、与板の地域を紹介します。資
 料は新市建設計画策定小委員会で審議された資料の
 抜粋です。詳しい内容はホームページなどをご覧く
 ださい。

もっと詳しく地域の力

和島村は、多自然型居住地域としてこれから益々期待できる地域です。今
 ブームの本物志向の人たちに、適度な便利さと適度な不便さ、適度な賑わい
 と適度な静けさ、最先端の情報と悠久の時間の流れが共存し、時空と時空が
 交わるタイムスリップ空間、人生の楽園候補地としての魅力づくりに励んで
 います。

■「ふるさと温故知新」のむらづくり

「スローフード・スローライフ」運動に代表されるように、今まで古臭い
 とみなされ、時代遅れだと捨てられてきたものが今見直され始めています。
 自分たちの足元を今一度見つめ直すことから始めようという「ふるさと温故
 知新」の精神をむらづくりの基本理念としています。ここに住む住民が自身
 を取り巻く自然・環境・諸物との調和を大切に、感謝の気持ちを持ち続け
 ながら、与えられた生を人間として尊厳のある充実したものとするために、
 真の幸福とは何かを今一度問い直し、足るを知り、こころを平らにし、気を
 やすらかにして、穏やかに暮らしていけるような平和な里づくりを目指して
 様々な取り組みにチャレンジしています。



住雲園と久須美秀三郎・東馬親子

曾我十郎祐成の子孫、16代当主久須美六郎により1717年に築造
 された名園。巨岩、奇石は各地の名産を集め、遠く弥彦山を望
 んだ借景の美は訪れる人のこころをとらえる。名付け親は大窪
 詩仏。17代当主はJR越後線・弥彦線の創始者久須美秀三郎で
 ある。子供の頃海舟に学び、和漢の学問を好み、進んで小学
 校を開いて子弟の教育にも努めた。洪沢栄一、前島密らと北越
 鉄道の創立にも奔走し、弥彦公園の開発にも尽力。小島谷駅に
 父の秀三郎像、弥彦公園には子の東馬像が建てられ顕彰されて
 いる。



和島オートキャンプ場

日本海を見晴らす丘に立つ和島オートキャンプ場。心地好
 い潮風、輝く緑、日本海を染める夕日、満天の星。海辺の
 自然があなたのキャンプステージ。ここを拠点に海水浴を
 するもよし、史跡めぐりをするもよし。さわやかな海辺の
 休日演出できるフィールド。



ラビットファームの活動

島田小学校を中心とした周辺地域の花好きの人、自然大好き人間
 の集まりが母体となり、学校の子供たちも巻き込んで、休耕田や
 山林等の自然を教材とした様々な活動を展開している。写真は小
 学校4年生がラベンダースティック作りを体験学習している様子。
 山林歩道の整備、道路沿道に花を植える活動、秋の収穫祭、自然
 体験学習の指導など、子供も大人も楽しみながら実施している。

和島地域



道の駅 良寛の里 わしま

良寛さんの直筆の書等が鑑賞できる「良寛の里美術館」やロダンや高村光太郎の作品
 が鑑賞できる「菊盛記念美術館」等が設置された従来からの静かな癒しの空間に付け
 加えて、子供から大人まで楽しめる賑わいの空間「ふれあい広場」や古民家を移築再
 生した「地域交流センター(もてなし家)」が整備された。隣には、国土交通省により
 24時間利用できる「道路情報ターミナル」と大区画の駐車場が整備されている。
 NPOスタッフによるこころのこもった「もてなし」が待っている。

もっと詳しく地域の力

寺泊地域

寺泊町は地域の財産である海に代表される豊かな自然と景観、古くは北前船の寄港地として栄えた歴史に裏付けられたチャレンジ精神と優しさに満ちた人情、そして農村部に見られる集落文化を大事に守り受け継いできた地域力、自然と歴史と活力が融合した素晴らしい地域です。現在の「海の寺泊」ブランドを多方面から検討し、人材や卓越した技術、海辺集落や農村集落に伝わる独特な伝統・風土・風習の発掘・再認識、地域・世代間を超えた共働意識の醸成を図ることによって、こころ豊かで活力ある地域として更なる発展を続けていきます。

■人と自然と歴史が融合する町

南北16kmの海岸線に面した豊かな自然と景観を地域資源として「海の寺泊」ブランドを確立したチャレンジ精神と農村部に見られる古き良き歴史と文化を大事に守り受け継いできた地域の力が融合した魅力あふれる町です。

豊かな自然と景観を保持・継続するためにナホトカ号の重油流出事故での真冬の寒風吹きすさむ海岸での住民ボランティアを中心とした清掃作業など幾多の活動を行っています。

海の寺泊ブランドの一つ「魚の市場通り」の起こりは、カニの試食という大胆な方法により消費者のニーズをしっかりと掴んだ大胆な発想でした。

漁師が食べた番屋鍋や新鮮な魚介類の浜焼き、昔から作られてきた小鯛寿司、独特な製法の塩たき羊かんなど地域資源を大事にした食文化は町民の誇りでもあります。

「あんにゃさ」をはじめとする世代間の強い連携は、農村部に見られる、先祖が大事に守り受け継いできた塞の神・集落の祭での「かぐら」などの文化を後世に伝える重要な地域の力となっています。

これら自然や歴史などの地域資源を活用し、大事に守り受け継がれてきた集落文化との融合を図り、地域・世代間を超えた共働の町づくりを強力に推し進めている町です。



とびきり新鮮！ 魚の市場通り
魚の市場通りは、いつも大漁。新鮮な海の幸と旬の味が店内にいっぱい。活きの良さと安さが売り物の魚の市場通りは、さすが港街とうなずける品揃えです。



魚とふれあえる日本海に浮かぶ水族博物館
魚に直接接触することが出来るタッチプール、世界最大の金魚ジャンボ獅子頭、テッポウオの餌取射撃ショー、マリンガールの餌付けショーなど近海魚、深海魚、熱帯魚の世界各地の水中生物が遊泳する館内は生きた「漁学」を親子で楽しく体験できる魅力イッパイの水族博物館です。



食材の宝庫 - 海の恵み
目の前に広がる日本海は食材の宝庫。この食材に人間の技と風土がミックスされ、漁師が食べた番屋鍋や新鮮な魚介類の浜焼き、昔から作られてきた小鯛寿司、独特な製法の塩たき羊かんなど満ち足りた食文化を堪能できます。



地域・世代を超えた地域づくりへの取組
寺泊町の玄関口を彩る大河津花壇は地域・世代を超えたボランティア組織によって管理運営されています。



文化の交流拠点
北前船の寄港地、港町として栄えた寺泊の白山媛(しらやまひめ)神社に航海の無事を祈って奉納された船絵馬は、50種類52枚にもおよびます。

もっと詳しく地域の力

栃尾地域

環境庁の名水百選に選定された杜々の森湧水をはじめ、各所に数え切れない湧水がある栃尾市は豊富な水資源と、伝統の織物で繊維産業のまちとして発展してきました。今、新たな時代を迎え、伝統産業で培われた技術力をもとに新産業の創設を目指しています。また、自然環境を活かした住空間の創設、テーマ型観光推進による交流人口の増加により、「住みたくなるまち、行きたくなるまち」を目指します。

■観光資源の宝庫

栃尾は杜々の森、守門岳、道院高原、謙信の里、道の駅など自然、歴史、文化などの観光資源が多数あります。また、獅子舞が1月2日に厄払いに各家庭を巡る葎谷の岩戸舞、2月の巢守神社の裸押合大祭、諏訪神社の春季例大祭の大名行列、7月の秋葉の火祭りなど、固有の祭りが数多くあり、幅広い年代にアピールできる伝統的観光地の要素を持った地域です。

さらに交通の拠点となる「道の駅R290とちお」では竹細工、栃尾てまりなどの特産品づくりが体験でき、観光産業に新たな魅力を付加できる起業が成長しつつあります。

また、栃尾市に縁のある人物として、天文12(1544)年に栃尾城に入城・旗揚げをし、6年間にわたり栃尾城に在城した長尾景虎(後の上杉謙信公) 阪神電鉄の初代社長や現在のアサヒビール、各種銀行の創立にも深く関わった栃尾市出身の実業家、外山脩造氏などが挙げられます。

今後はこれらの観光資源を結びストーリー性のある観光ルート作り、観光ボランティアガイドの養成に努め、住民ネットワークで観光の拠点を目指します。



日本二百名山に数えられる中越の名峰・守門岳
守門岳は袴岳、青雲、大岳の三連山で、大岳の頂上には守門大明神が祀られ、登山口のひとつ栃堀には本殿巢守神社があり、上杉謙信が信仰したといわれる毘沙門天が祭られている。登山道のブナ林と眼下に越後平野、遠くに佐渡島を望む山頂の眺望は圧巻。また、大岳と袴岳の間、数百メートルの雪庇は東洋一といわれる。



雁木の街並み
栃尾市に残る雁木は総延長4.3km。日本で3番目の長さで、豪雪地帯・栃尾の名物になっている。雁木の残る表町地区では1998年から「雁木を生かしたまちづくり」活動を展開している。



あぶらげ
250年の伝統を持つ栃尾名物ジャンボあぶらげ。長さ20~22cm、幅6~8cm、厚さ3cmと普通の油揚げの3倍の大きさ。市内に約20軒ほどのあぶらげ屋がある。毎年10月には「あぶらげまつり」を開催している。



ほだれ祭り
ほだれとは「穂垂れ」の意味で、農耕の実りを表す言葉。早春に行われる越後の奇祭として知られる。栃尾に嫁いで来た初嫁が神輿に乗った男根形の御神体にもたがり、それを男衆が担いで村を回り、五穀豊穡、子宝、安産などを願う。



源流の里が産んだ芳醇な酒
四方を山に囲まれた雪深い地、豊かな清水、澄んだ空気という最高の環境で、上質な米から造られた栃尾の酒はすっきりとした淡麗辛口。酒品評会でも数々の栄誉に輝いている。

もっと詳しく地域の力

西山丘陵の自然を生かした森林公園や中腹にある楽山亭から市街地を見下ろすと、そこには広大なパノラマが目に飛び込んできます。「水静かなる信濃川」と小学校の校歌にも歌われている大河信濃川を前面に、平地に立ち並ぶ町並、「米どころ」越後平野の一端を担う水田がそれを囲むように広がっています。緑豊かな自然の中に育まれた濃やかな人情と歴史に引き継がれる伝統文化を合わせ持つ、情緒豊かな地域です。

■自然が生み出すづくり

市街地の中心を流れる旧黒川沿いに造られた河川公園では、毎年5月の新緑の頃、リバーパークフェスティバルが開催されます。子どもから大人まで楽しめる内容盛り沢山の手作りイベントは、住民有志で結成される実行委員会で運営されています。

緑に囲まれた森林公園は、昆虫、野鳥、植物などの宝庫です。現在、住民の自主グループにより、自然保護と体験学習を目的とした「昆虫の森プロジェクト」や「カブトムシ育て隊」が結成され、自然を活用した様々な活動が行われています。

このような住民活動をより広げることにより、地域にある資源を大切に守るとともに、地域を知り、共同活動の中で人をいたわり、助け合う心を養うづくりを次世代につないでいきます。

与板地域



河川緑地たちばな公園

町の中心を流れる旧黒川沿いにある通称「河川公園」は300本以上の桜と18万本もの花菖蒲が植えられ、子供が楽しめる様々な遊具もあり、休日には町内外からの家族連れなどでにぎわう憩いの場です。



登り屋台

「屋台坂」を引き上げられる登り屋台は、毎年9月中旬に行われる与板十五夜まつりのメインイベントです。240年余の歴史を誇り、勇壮で住民の心が一つになれる町のシンボルです。



楽山亭

豪商「大坂屋」三輪家により造られた楽山亭は、町民から「別荘」と呼ばれ親しまれています。新緑の頃にはライトアップが実施され、たくさんの人でにぎわいます。



越後与板打刃物

戦国時代に起源を發する与板の打刃物。400年余の伝統と技は全国一の主産地となり、昭和61年に「越後与板打刃物」として伝統的工芸品の指定を受けました。



うまみち森林公園

豊かな自然を満喫できるこの公園は、ツリー型バンガローハウス、オートキャンプ場サイトの整備など、自然に親しみやすく楽しめるキャンプ場にリニューアルしました。



長岡市・与板町合併協議会
新市建設画策定小委員会（長岡市役所）



長岡市・栃尾市合併協議会
新市建設画策定小委員会（長岡市役所）

長岡市・和島村合併協議会事務局

ホームページアドレス <http://www.nagaoka-gappei.jp/nagaoka-washima>
Eメールアドレス office2@nagaoka-gappei.jp

長岡市・寺泊町合併協議会事務局

ホームページアドレス <http://www.nagaoka-gappei.jp/nagaoka-teradomari>
Eメールアドレス office3@nagaoka-gappei.jp

長岡市・栃尾市合併協議会事務局

ホームページアドレス <http://www.nagaoka-gappei.jp/nagaoka-tochio>
Eメールアドレス office4@nagaoka-gappei.jp

長岡市・与板町合併協議会事務局

ホームページアドレス <http://www.nagaoka-gappei.jp/nagaoka-yoita>
Eメールアドレス office5@nagaoka-gappei.jp

長岡市幸町2-1-1 長岡市役所内
電話 39-2260・39-2227(直通) FAX 39-2254

みなさんの声をお寄せください

合併に対するご意見・ご質問をお待ちしています。協議会のホームページのほか、手紙、電話、FAXなどでお気軽にお寄せください。

次回の協議会についてのお知らせ

次回の協議会開催日は未定です。開催日が決定次第、ホームページなどでお知らせいたします。